



部長通信

第3号

2018年11月発行

主 題 ワイズ総活躍中部

2018-2019 中部部長 柴田洋治郎

(名古屋東海クラブ)

活動方針

1. EMCに注力すると同時に各クラブの実情に合わせた、個性あるクラブ作りを目指す。
2. ワイズメンズクラブの目的は、第一にYMCAへの奉仕であり、引き続きYMCAとの協働を深化させる。
3. 名古屋、三重、石川、(富山)各クラブ間の連携強化。

11月の西日本区強調月間 Public Relations Wellness

広報・情報委員長 加藤信一(京都トップス)

「ワイズメンズクラブの活動を広報して、社会的認知度を高めましょう。」

他地区の部会に参加して

本稿は部長通信第2号の続きとしてお読みいただきたい。上記の題目で話を進める前に、少し残念に思ったことは、西日本区内で東の端に位置する中部の距離的ハンディーの件である。それは、既に参加した八つの部会の内、九州、西中国、瀬戸山陰、六甲の各部会に、中部から参加したのは私1人だけであったことである。大阪、京都、六甲などの関西地区の各部は近距離内に固まっており、お互いのコミュニケーションもとり易く、部会への登録者を募る際も中部に比して有利だと思われる。尤も、西端に位置する九州部のことを考えれば、部会開催に限らず、様々なワイズ活動においても、この範囲で我々は努力するしかないとも思う。

さて、最初に参加した部会は9月1日、熊本で開催された九州部会である。九州部は16クラブ、約300名の会員を擁する、西日本区でもワイズ活動を牽引する部である。大会参加者も220余名を数え、規模に応じた盛大なものであった。式典に先立つメネットアワーでの講演は「子供の貧困と向き合う」という、ワイズやYMCAにとっても関心の高い内容のものであった。式典では熊本五福クラブのチャーターナイトが開催されたが、新会員は若く、女性会員も多く、熊本の勢いが益々印象付けられた。懇親会に移るとバンド演奏、寸劇、各方面からのアピールもあり、会場の熱気は益々上昇して、遂には会場内にドローンも登場して、場内に映像が映し出されることともなった。この賑やかさは九州の人々の大らかさにも関係していると思われた。

翌週に開催された京都部部会も九州に負けず劣らず盛大なものであった。18クラブ、約500名の会員数を誇る部であり、イベントの中身もバンド演奏、ゴスペルの歌唱ありと賑やかなものであったが、大会運営は大規模にも関わらず緻密であり、統率がとれ

たものであった。尚、京都部は直前部長の竹園憲二ワイズがエルマークロウ賞を授与され、竹園ワイズが働き盛りの年代でもあることから、今日の京都の隆盛を象徴するものとも思われた。

以上二つの部の華やかな大会運営の様態を伝えたが、この両部に共通するのは会員の数的優位と若いということを背景に活力があふれており、このエネルギーを基に多くの奉仕活動、イベント、懇親の場を設けていること等、永年に亘る地道な努力が両部に好循環を招いていると思われる。まさに、ワイズ起こし運動が提唱している「質量相俟った会員増強」を推進しているモデルケースであると思われる。我が部も大いに見習うべきと思う。

続いて、9月中に大阪における中西部、阪和部、神戸での六甲部部会に参加した。いずれも中クラスの規模の部につき、中部部会開催の参考になると目論んで参加したものである。この中で印象に残ったのは、阪和部会における、障がい者による「大阪チャチャバンド」の演奏である。障がいのハンディーをものともせず、ダンスパフォーマンスも含めて元気いっぱいのもので、確実に聴衆の心をつかんでいた。阪和部以外でも部会運営が魅力的に運営されており、中部部会運営の参考となるものが多かった。9月最後の西中国部部会は台風24号の接近があったものの、大会当日は東広島・西条における大会運営には殆ど影響が無かった。この部会のEMCシンポジウムにおいて、個人ブースター賞を3回受賞された、北九州クラブ宮川詩麻ワイズ（女性）の講演があり、ワイズ活動に対する氏の真摯な取り組み姿勢を聞くに及び、自分自身啓蒙される思いがした。

以上の部会における詳細については、西日本区のHPにおける各部の部報や所属するクラブのブリテンを参照されたい。又、次回の部長通信では、我が中部部会の様子を反省点も含めお伝えすると、翌日一泊で開催された瀬戸山陰部部会及び最後のびわこ部部会の様子を述べたいと思う。